

こんな生徒を育てたい...「学校教育目標」

百日草～星野富弘～
二度と来ない
今日というこの日
この一日を
百日のように生きたい

詩と水彩画による作品を多く残された星野さんの
作品の中で私が一番好きなのは「百日草」です



実はこの星野富弘さんとは中学校の体育の先生です。
部活動の指導中、鉄棒横吊り演技の時にみやがて落下し首から
下の機能の働きが弱まりました。歩くことも手で物を握ることも
できなくなりました。車いすとバンドの上での生活の中で星野
さんは水彩画に詩のせたい作品をつくりあげていきました。
同じ体育教師であったこと、そして手足の機能を奪われた
なお、人生を悲観することなく、前向きに強く生きる姿を見て
多くの人々に勇気や希望を与えるメッセージ...

私はそんな星野さんの生き様に魅了されました。

私の思う「生きる」とは、
「汗をかき歯をくいしばって目標に向かう姿、頭をかえ
枝を悩ませ、嬉しくて笑ったり悲しくて泣いたり、ふと
とけの誰かの温かさを感じたり、そんな感情全てが
「生きる」ということだと思います。

生きるということとは過去のことではなく「今」という時間に
大きな意味があります。

つらな過去に泣くよりも、全力で生きた過去を誇
りに思えるように精一杯「今」と生きていてほしい。そんな
願いを込めて、この学校教育目標をかかげました。

菊池北中生徒ひりひりのドラマが、
今日、この場所から始まります！

令和七年度 学校教育目標

生きる



百日草 ～星野富弘～

二度と来ない 今日というこの日
この一日を 百日のように生きたい

感動いっぱい 夢いっぱい いのちいっぱい

自分が命がけ(一生懸命)になって生きていることに間違いはありません。自分らしく生きていき、そんな自分に納得し、そんな自分を好きになる。そんなみんなに
なってほしいと思っています。サブテーマに掲げた3つのキーワードには、こんな思いを込めています。

感動いっぱい・・・「感性」を養うこと。自らを「律する」こと。

夢いっぱい・・・「感謝」すること。「人を思いやる」こと。「自分を見つめる」こと。

いのちいっぱい・・・「今」と「ここ」にこだわること。「自分を好きになる」こと。

1. 「感動いっぱい」

「感動」ということは、感性を磨くことです。ひとりひとりの感性を磨くためには、「集団」の力を磨いていくことが重要です。なかまとの関わりの中で様々
な考え方に触れ、自分の考え方を改めていったり、深めていったりできます。なかまとともに喜び合ったり、苦しいときには一緒に泣いたり、励まし合ったり、時には
意見のぶつかり合いをしながら、多くの感性を磨いていってください。

「律する」とは、社会性を磨くことにつながります。秩序やルールを守ること、規範意識を高めることは、みんなにとっては「自由の束縛」というイメージを持
ちがちですが、本当は真逆です。秩序やルールがあるからこそ生活は成り立ちます。自分を律し、苦しいことに自ら飛び込んでいってください。その先にあるもの
は、達成感から生まれる「感動」です。

2. 「夢いっぱい」

みんなの夢がどんどん広がっていくように応援していきます。

夢を持つということは、過去や未来を語ることを意味します。自分の生き方を語ることを意味します。過去や未来を語るためには、「今の自分を見つめる」ことは
欠かせません。今の自分があることを当たり前だと思わないでください。今の自分があるのは、自分を取り巻く多くの人の存在があるからです。そこに気付ける人
から溢れ出る言葉は、「ありがとう」の感謝の言葉しかありません。「感謝」の心と、人を思いやる「敬愛」の心と、「自分を見つめる」心で育ってください。

3. 「いのちいっぱい」

全ては「百日草」に込められています。1日という時間の重さを感じながら、日々を精一杯生きていってください。だからこそ、「今(時間)」と、「ここ(場所)」
を大切にしてほしいと思っています。全力で日々を生きていけば、みんなは自分のことがもっともっと大好きになるはずです。1年後の自分の姿、学級の姿を思い描
きながら、力強く生きていってください。